

# こすもす便り

第6号 (2017年4月)

◇保護者の皆さまへのお知らせ紙です◇

## ★ご挨拶

### ★新しい仲間が増えました

3月から新しく2名の利用者が参加しています。ドッチボールが得意な2年生と折り紙の得意な4年生の男子です。人数が増えると、伝承遊びやチームで競う遊びに広がりが見られるようになってきました。4月からは新1年生も参加する予定です。1年生から5年生までの異年齢で構成される集団は、子ども達の自我が芽生えるギャングエイジングに有効な環境になるかもしれません。

ある時期から友達を大切に、仲間だけで行動することが多くなり、大人の介入をいやがるようになりますが、成長の段階で異年齢や異性の友達とのつきあい方も学んでいくのですから、これまで以上の配慮が必要になります。

昔は原っぱが遊び場でした。でこぼこ道をただ夢中で走った鬼ごっこ。本気で追いかけて本気で逃げ回ったことがなぜあんなに楽しかったのか。木登りもただ登るだけなのに枝振りのいい高い木を見つけると女の子でも心の高揚が抑えきれず、ワクワクしたものです。そしてそれらの遊び仲間は近所の異年齢の子どもたちでした。遊び方も自然に年齢から順に役割が決まっていきます。大人役から赤ちゃん役まで・・・小さな弟を抱えてきていた友達もいたので、赤ちゃん役は本人に了解なしに当然のようにその弟に決まるので、1年生でも立派な役割がもらえるわけです。

普段は意識することはないのですが、こうして思い出を蘇らせると、その頃に遊んだ経験が今でも体の深い部分に染みついていることがよく分かります。

外で遊ぶ場所も機会も少なくなった現在の子供たちです。「こすもす」で思う存分身体を動かし、手先を動かし、心を動かして欲しいと願っています。仲間が増えた分、一人ひとりの違った価値観を主張し合い、せめぎ合いも増えることでしょう。子供たちが安心してせめぎ合いながら、折り合い方を学べる環境でありたいものです。

子供の頃の楽しい記憶が多ければ多いほど、子供たちの未来は豊かに息づいていくに違いありません。

### ★アートプログラム A・B の2作目が完成しました

アートプログラム A の2作目は4月から進級する友達と、新1年生になるお友達へのお祝いの気持ちが込められた芸術的なメッセージが出来上がりました。

小さな指で折られた折り紙や切り絵の一枚一枚が集まって大きな愛情が伝わってくるものになりました。日常の小さな積み重ねはその場その場ではいつも同じように見えるのでその変化はわかりにくいのですが、一つの形になったときに一つずつの変化がよく分かります。

3月の初めに切ったさくらの花はどことなく遠慮がちに小さな花びらが数枚重なっていたのを覚えています。そのうち、少しずつ存在感を示すように、箱のふたを開けるたびに重ねて納められている濃淡のピンクの花びらが競って飛び出そうとひしめき合っていました。

今か今かと待ち構えていた花びらは、いよいよ箱から出されてみんなの手で一つ一つ貼り付けられ、満開になったさくらの木として進級、新入学を迎えた子供達の門出を祝って咲き誇っています。

## ★コミュニケーション育てるとは？

私たちの生活では、言葉によるコミュニケーションは、意思伝達の30%しにすぎないといわれています。つまり表情やジェスチャーのような言葉に依らない手段が大半だということです。子供達の発達の順序を考えず、意欲や自信を育てず、ささやかな意思表示を無視してはコミュニケーションの世界は広がりません。

コマーシャルや駅名は覚えるのに、人との会話が難しいのは言葉とコミュニケーションが結びついていないからではないでしょうか。言葉以前にコミュニケーションの前提となるのは人と関わりたいという気持ちが育まれていることです。

まだ言葉を持たない時期の子供達が発揮しているコミュニケーション力を考えると、言葉がなくてもその意欲さえ育てられれば、生活していけるだけの意思伝達は出来るのが分かります。

子供は自分の好きなことを尊重してくれる大人が好きです。自分の好きなことに共感し、膨らませ、発展させてくれる仲間が大好きです。

子供が自分の意思を伝えようとする何らかのサインは「泣く」「目の動き」「一瞬の緊張の高まり」「パニック」などがあります。でも発達障害などのある子供は、そのサインがささやかすぎたり、激しすぎたりするために伝わりにくいことが多く、その結果「分かってない子供」「困った子供」と思われ、自分の意思に沿わないことを繰り返されていくうちに、コミュニケーションに自信を失い、意欲を失っていくことになりかねません。

持っている意欲をわかりやすい方法で表現できるように繋いでいかなければならないのに、あきらめさせてはいけません。私たちが子供たちを理解しようとするなら、まず子供達に信頼されることです。信頼されれば子供達は様々な方法で自分の感情を出してくれます。それが大人にとってはどんなに困った行動でも、せっかく出してくれた感情から、子供達が発信する見えない心に寄り添い、聞こえない声に耳を傾けることでニーズは発見されるのです。

分からないままでは本当の療育は出来ません。コミュニケーション力は、人への興味・関心、関わろうとする気持ちを育てることがなにより重要です。私たちは、やりたいことのためなら思いがけない力を発揮している子どもたちの姿を日常でもよく目にしているはずです。